Ⅲ. 分担研究報告 1

厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
令和 7 年度分担研究報告書

健診及び結果説明、形態学的評価

研究分担者　　齋藤　貴徳　　関西医科大学整形外科学講座　教授

研究要旨
令和 7 年度の健診について報告する。当施設は本年度からサリドマイド胎芽症を対象とする人間ドック健診を開始した。令和 7 年 4 月から健診実施に向けた準備を開始し、年度後半から受診希望者を受け入れた。受診者数は 6 名で、男性 3 名、女性 3 名、平均年齢 63.0 才であった。

研究結果

１．上部消化管内視鏡検査を 4 名に実施した。検査に伴う合併症は認めなかった。胃がんをはじめとする悪性腫瘍は認めなかった。2 名に胃ポリープ、2 名にびらん性胃炎、4 名に食道裂肛ヘルニアと胃食道逆流症を認めた。

２．頭部・体幹部 CT を 4 名に実施した。1 名に耳小骨低形成を認めた。

３．頚椎・胸椎 MRI を 3 名に施行した。
全例に加齢性変化を認め、整形外科受診を勧めた。

４．腹部超音波検査では 6 名中 5 名に脂肪肝を認めた。その他、腎のう胞、肝のう胞、軽度脾腫を認めた。

５．骨密度検査は 5 名に施行し、全例で基準値内であった。

６．生活習慣病関連の検査では、4名でBMIが23%以上、うち3名でBMIが25%以上であった。男性 2 名、女性 3 名で腹囲が基準値以上であった。中性脂肪は 2 名で 150 mg/dL 以上、LDL コレステロールは全例が 140 mg/dL 未満であった。HDL コレステロールは 1 名が 40 mg/dL 未満であった。2 名に耐糖能異常が見られた。

７．整形外科的診察では、1 名に頚椎疾患の疑い、1 名に坐骨神経症状を認め、精査および整形外科受診を勧めた。

考察

例数が少ないため統計的な解析は困難であるが、サリドマイド患者では脂肪肝の頻度が高いと考えられた。脊椎の加齢性変化を含む整形外科的所見が見られる症例が多く、経過観察が必要であると考えられた。